

10月の生産動態統計速報

遠心力鉄筋 コンクリート ポール	生産	41,446ト	(92.6)
	出荷	40,139ト	(88.4)
	在庫	95,978ト	(97.2)
遠心力鉄筋 コンクリート パイプ	生産	105,790ト	(92.9)
	出荷	104,961ト	(81.5)
	在庫	191,352ト	(109.8)
道路用 コンクリート 製品	生産	201,403ト	(90.8)
	出荷	214,451ト	(93.2)
	在庫	913,027ト	(105.7)
木毛・木片 セメント板	生産	1,831千枚	(103.0)
	出荷	2,378千枚	(99.6)
	在庫	3,339千枚	(111.7)
気泡 コンクリート 製品	生産	139,215㎡	(93.1)
	出荷	140,007㎡	(93.9)
	在庫	52,505㎡	(97.1)

注) カッコ内は前年同月比%。

**5品目すべて
で前年割れに
10月の生産動態統計**

経済産業省が発表した生産動態統計速報によると10月のセメント製品出荷は5品目すべてで前年同期に比べて減少となった。

遠心力鉄筋コンクリートポールは18・5%減。パイプは今年に入って減少が続いており、9

月は微減に留まったものの10月は二桁減となっている。

パイプに次いで減少幅が大きかったのは遠心力鉄筋コンクリートポールで11・6%減。道路用コンクリート製品が6・8%減と続いている。

生産は木毛・木片セメント板を除く4品目で減少。道路用製品が9・2%減となったほか、パイプが7・4%減と続いている。

現場は北海道を代表する菓子店「柳月」のスイートピア・ガーデン前。カフェや体験工房、工場見学などもあり観光スポットとなっていることから観光バスなどの車両の交通量が多いため、急速施工が求められた。

施工は大型クレーンで吊り上げて基礎コンクリート上に据え付け、製造工場から現場まで運搬し、220トンクレーンで吊り上げて基礎コンクリート上に据え付け、10月11・12日の2日間、据え付けを行い、11日に半日で8個を据え付

ており、日本はソサエティ5・0を提唱している。IoTやAIなどで住宅が起点となって消費者に多様なサービスを提供できるようになるだろう。建産協としてはIoT住宅の普及のためにシステムエラーやユーザーによるエラーに対する機能安全規格の開発に取り組んでいる。

え、工法PRなどを積極的に進めており、全国的に行っており、全国でこれまでに約400件の実績を積み重ねている。

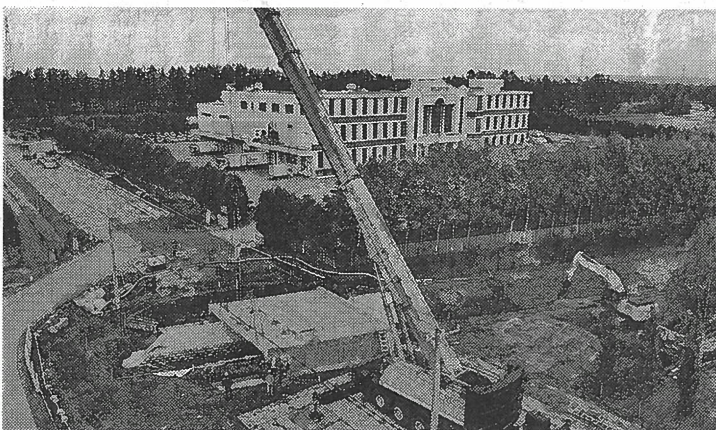
し、工法PRなどを積極的に進めており、全国的に行っており、全国でこれまでに約400件の実績を積み重ねている。

元ピーエス三菱社長の田中義一(たなか・ぎいち)氏は11日、肺炎のため死去した。87歳。葬儀・告別式は近親者のみで済ませた。喪主は妻、啓子(けいこ)氏。

田中氏は1958年4月にピーエス・コンクリート(現ピーエス三菱)入社、83年6月に取締役、87年6月に常務取締役、93年6月にピーエス(現ピーエス三菱)専務取締役、97年6月取締役副社長、98年

6月取締役副社長、98年

共和コンクリート工業の斜角門形カルバート



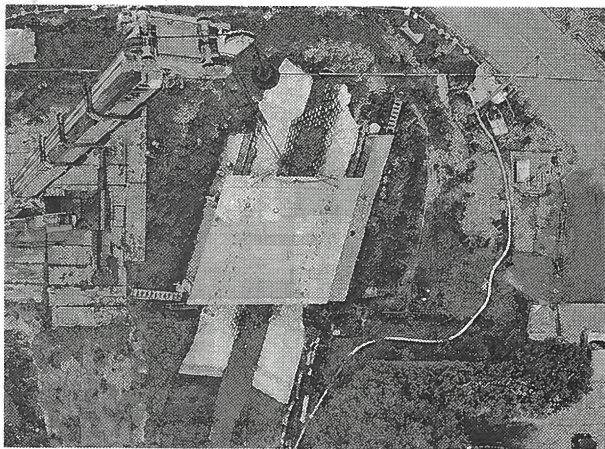
かぶせるだけで施工が行え水替えが不要

共和コンクリート工業(北海道札幌市、本間丈士会長)はこのほど、北海道苫小牧市役場発注の道路改良工事に「斜角門形カルバート」を導入した。北海道では2例目の実績。同社は北海道建設部の新技術情報システムに斜角門形カルバートの登録を行っており、今回の実績を踏まえて道内の中小河川や農業用の用・排水路などにかかる橋梁の代替として提案営業を強化していく方針だ。

斜角門形カルバートは、既設水路にプレキャスト門形カルバートをかぶせて、カルバート上部を小規模橋梁の代替として活用するもの。道路と水路との交差角を60〜90度まで自由に設定できる。現場打ち基礎コンクリートの上にかぶせるだけで施工が行えるため、通常の施工現場では20分以内のペースで敷設できることから工期短縮を実現している。また、既設水路を撤去せずに施工ができる構造のため、一般橋梁のように水替えや支保工などの仮設工が不要。

道内で2例目、営業強化へ

急速施工で橋梁代替



既設水路と道路の交差角は74度(真上から撮影)

今回の工法が採用されたのは苫小牧発注の「音更下音更西3線道路改良舗装工事」。設計は北開水工コンサルタント、施工は村上・ドウテック特定建設工事共同企業体が行った。

カルバートの部材寸法は内幅9500×内空高1700×奥行912。道路と水路の交差角は74度。道路幅員は13・75mで15個の部材を使用した。部材の重量は1個当たり約19ト、総納品重量は286トとなっている。

現場は北海道を代表する菓子店「柳月」のスイートピア・ガーデン前。カフェや体験工房、工場見学などもあり観光スポットとなっていることから観光バスなどの車両の交通量が多いため、急速施工が求められた。

省 道路資材調達あり方検討

七協・全生連が現状説明

国土交通省は11月29日、中央合同庁舎で「道路における建設資材調達に関するあり方検討委員会(委員長・秋葉正一日本大学生産工学部教授)の第2回会合を開いた。

高度成長期に整備した橋梁やトンネル、舗装などの老朽化が進み、建設後50年を経過した橋梁の割合は10年後には50%に急増し、維持管理費用は拡大する傾向にある。

一方で、道路整備・維持管理に必要な建設資材は需要の減少に伴う供給不足の懸念がある。

建設、道建協が資料に基づいて各建設資材の需要や供給体制の現状などを紹介し、今後の検討の進め方について協議した。

七協はセメントの生産基地や流通体制、需給や価格の推移について説明。全生工組連は生コンの出荷量の推移など生コン産業の現状を紹介した。構造改革事業における生コン工場の集約化に触れ、集約化による輸送の遠距離化が進み、JIS規格で規定されている90分以内で供給できない地域が発生していること



元ピーエス三菱社長 田中義一氏死去

元ピーエス三菱社長

二次製品談話室

10月21日に前任の奥氏が就任した。13日に田慶一郎専務理事の後任として日本建材・住宅設備産業協会(建産協)の参与に寺家克昌

IoT住宅普及



IoT住宅の普及の推進事業、グリーン建材の規格化などの重点課題活動を紹介した。「世界は第4次産業革命の時代に入っ

12日の午前中には残りの7個の設置を完了している。カルバートの両側を埋め戻して防護柵の設置や舗装を行って供用する。

同工法の普及に向けて、2003年に斜角門形カルバート工法研究会(岩佐隆会長)が発足

るヒアリングを行ったうえで第4回以降に今後の取り組み方針の取りまとめを行っていく。